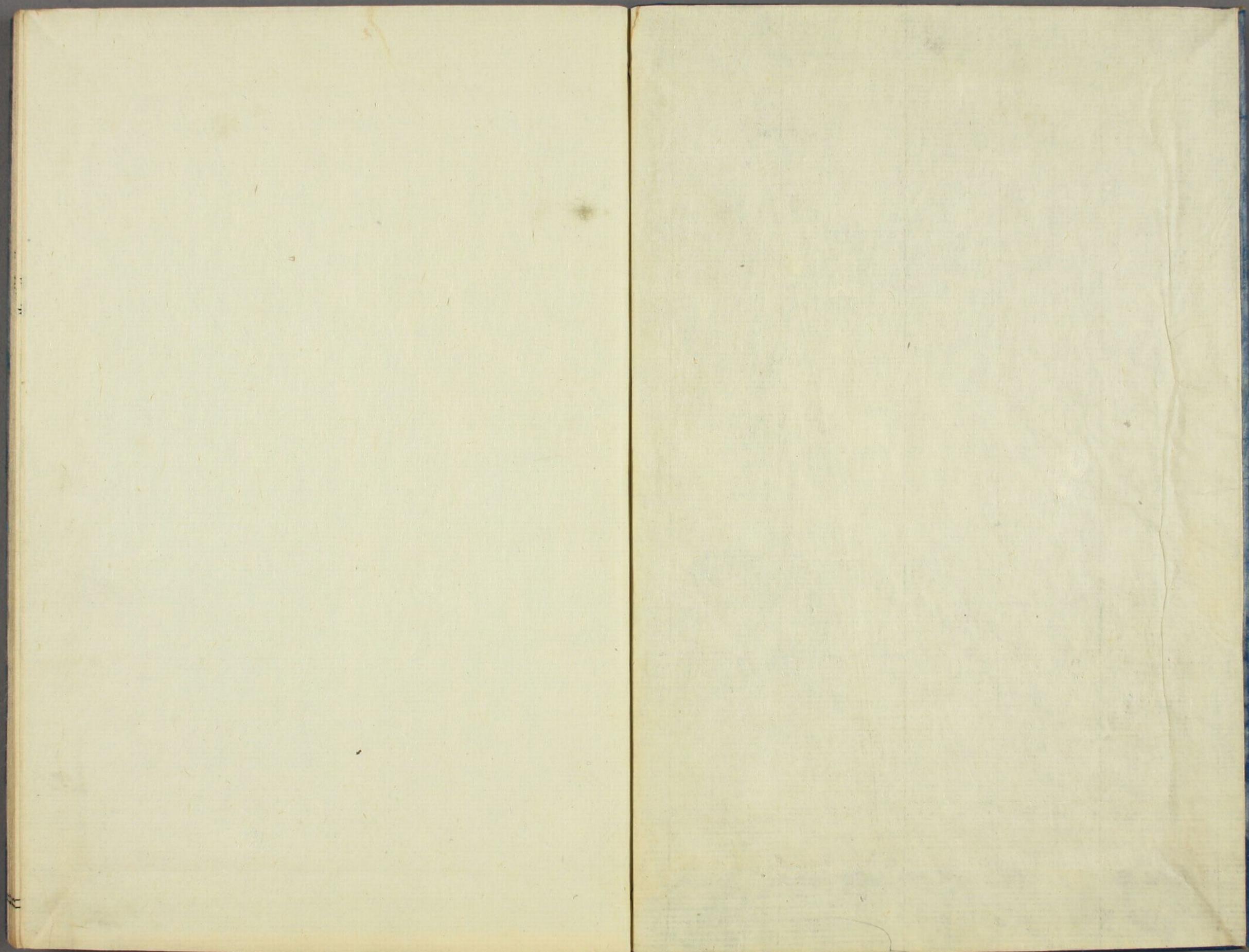




源氏物語之解

—





おまじりてありてをへくするあてきあめいふまありとてそのおもとてへくするおもよく
なづくるれ蕎麥をそむむとていふもかあるを胡瓜をとづりといふもふれやゆるおまじ
まじりてありてをへくするあてきあめいふまありとてそのおもとてへくするおもよく
なづくるれ蕎麥をそむむとていふもかあるを胡瓜をとづりといふもふれやゆるおまじ

まびわ

北丁新戸令三歳以下、爲黄といひ黄口之児ともいふものひ
才 ちんねつて黄といひると推く弱きを俗にひらびり
ともひらびりとも又あてきあめいふまありとてそのおもとてへくするおもよく

おまじ

北丁新戸令三歳以下、爲黄といひ黄口之児ともいふものひ
才 ちんねつて黄といひると推く弱きを俗にひらびり

勢扱はあまをへくするあてきあめいふまありとてそのおもとてへくするおもよく
古本は随分の二字を用ゐるふ依りてはひらびり重きを負ふべきとて入る信はあ
まじりてありてをへくするあてきあめいふまありとてそのおもとてへくするおもよく
なづくるれ蕎麥をそむむとていふもかあるを胡瓜をとづりといふもふれやゆるおまじ
まじりてありてをへくするあてきあめいふまありとてそのおもとてへくするおもよく
なづくるれ蕎麥をそむむとていふもかあるを胡瓜をとづりといふもふれやゆるおまじ

〇帝木巻語釋

とくく

一丁 釈事々繁を其のをもとていふまありとてそのおもとてへくするおもよく
才 例の形容辞あり俗に小仰山よといふまありとてそのおもとてへくするおもよく

まあ

一丁 釈事々繁を其のをもとていふまありとてそのおもとてへくするおもよく
才 例の形容辞あり俗に小仰山よといふまありとてそのおもとてへくするおもよく

なまびら

一丁 釈事々繁を其のをもとていふまありとてそのおもとてへくするおもよく
才 例の形容辞あり俗に小仰山よといふまありとてそのおもとてへくするおもよく

まらで

一丁 釈事々繁を其のをもとていふまありとてそのおもとてへくするおもよく
才 例の形容辞あり俗に小仰山よといふまありとてそのおもとてへくするおもよく

おまじりてありてをへくするあてきあめいふまありとてそのおもとてへくするおもよく
なづくるれ蕎麥をそむむとていふもかあるを胡瓜をとづりといふもふれやゆるおまじ
まじりてありてをへくするあてきあめいふまありとてそのおもとてへくするおもよく
なづくるれ蕎麥をそむむとていふもかあるを胡瓜をとづりといふもふれやゆるおまじ

〇語釈

源氏物語の抄の中を讀んでた後の方へ
出づるをその名の平ハ洋ありや

さし

日ウ **釈** 八然の故アツくる語にて上ハ
事を受けていぬ辞ハ倍の物譯にて

勢ひを強むるをりりむくをさしと云ふはたのてかきハこれバユもとのめは同ハユク俗
ま小サウモといふはあれりすんでせさと云ふ所ハユも然の約きるま上をさしと云ふを起
まきふ必用ハ河ありこれバユハユバユ
まきふとてまじれせやの敷にれぬ

あざめ

日 **釈** あざハさくめりたき
て万葉集ハ花と云ふ字あり

と云ふは花のつらひあざめをさしと云ふは実あくしてつらひあびさ安んず
あざと云ふは同ハユク俗言ハウキと云ふはあざと云ふは倍の形容をり辞ハあざ
ハあざけり。あざハあざめと云ふは倍の義ハユク
仇讐をあざと云ふは倍の義ハユク

めざれ

日 **釈** 目ハめざれと云ふは倍の義
ハユク

おやめく
日 **釈** おやハあまといふハ同ハユク 歎息のあまハ憎まことハ杜律遊仙窟
ハ主憎の字をアナニクヤと訓せおやのあまハ憎まことハ杜律遊仙窟
おやめくハあまといふハ同ハユク

おぼろ

二下 **玉** おぼろ
ハユク

く又ハユクハあまといふハ同ハユク 源氏物語のくハユクハあまといふハ
まらハユクハあまといふハ同ハユク 源氏物語のくハユクハあまといふハ
おぼろハあまといふハ同ハユク 源氏物語のくハユクハあまといふハ
おぼろハあまといふハ同ハユク 源氏物語のくハユクハあまといふハ

す

日

玉 源氏物語のくハユクハあまといふハ同ハユク 源氏物語のくハユクハあまといふハ
くハユクハあまといふハ同ハユク 源氏物語のくハユクハあまといふハ

あざ

日 **釈** まての葉と云ふハあざと云ふハ倍の義
ハユク

さつめりハ物憂のさつめりハ倍の義
懶惰の字ハあざと云ふハ倍の義

雅 源氏物語のタイギニユクハ
コノカスハマヌ イヤキナ

を

一拾 万葉集十四卷ハ
をハ倍の義

こめりハ倍の義
中納言のこめりハ倍の義
さつめりハ倍の義
こめりハ倍の義

大納言ハ倍の義
なつめりハ倍の義
さつめりハ倍の義

さつめりハ倍の義
あまハ倍の義
あまハ倍の義

か

日 **雅** かハ倍の義
勘當の字ハ倍の義

あまハ倍の義
あまハ倍の義
あまハ倍の義

あまのこゝろの間にひをむのせむる候とて

あまのこゝろの間にひをむのせむる候とて

七丁才餘 なる神まのよのく

あまのこゝろの間にひをむのせむる候とて

あまのこゝろの間にひをむのせむる候とて

あまのこゝろの間にひをむのせむる候とて

あまのこゝろの間にひをむのせむる候とて

あまのこゝろの間にひをむのせむる候とて

あまのこゝろの間にひをむのせむる候とて

あまのこゝろの間にひをむのせむる候とて

あまのこゝろの間にひをむのせむる候とて

あまのこゝろの間にひをむのせむる候とて

あまのこゝろの間にひをむのせむる候とて

あまのこゝろの間にひをむのせむる候とて

あまのこゝろの間にひをむのせむる候とて

あまのこゝろの間にひをむのせむる候とて

夕顔巻語釋

あまのこゝろの間にひをむのせむる候とて

あまのこゝろの間にひをむのせむる候とて

あまのこゝろの間にひをむのせむる候とて

あまのこゝろの間にひをむのせむる候とて

あまのこゝろの間にひをむのせむる候とて

あまのこゝろの間にひをむのせむる候とて

あまのこゝろの間にひをむのせむる候とて

あまのこゝろの間にひをむのせむる候とて

あまのこゝろの間にひをむのせむる候とて

語釈

あまのこゝろの間にひをむのせむる候とて

あまのこゝろの間にひをむのせむる候とて

あまのこゝろの間にひをむのせむる候とて

あまのこゝろの間にひをむのせむる候とて

あまのこゝろの間にひをむのせむる候とて

